

- 1 会議名 総務・産業建設常任委員会協議会
- 2 日時 令和2年9月7日(月)
午前10時30分から午前10時48分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席委員 (委員長) 関戸郁文 (副委員長) 谷平敬子
(委員) 片岡健一郎、水野忠三、宮川隆、堀 巖、榊谷規子
- 5 説明員 なし
- 6 事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同統括主査 寺澤顕
- 7 委員長挨拶

8 協議事項

(1) 令和2年度政策提言について

関戸委員長：宮川委員から報告がある。

宮川委員：前回の宿題で、5Gと道路のチップを埋めて車を誘導するシステムに関して県を通じて確認を取った。5Gに関しては国の方針として明確なので、それを補助する器も県で持っているということだった。もし道路に対する5Gを基準とする設備を今後岩倉市として設置するのであれば、県が窓口になって補助金の制度もあるという様な報告をうけた。一方、チップを埋めるという部分に関しては、5Gに比べてタイムラグが少ないので安全性に関してはかなり担保がされているということだが、国がそれに対する補助制度や補助に対する根拠法を持っていないということもあり、もしやるのであれば、市単独、もしくは事業者の設置ということになるそう。もし、事業者と岩倉市が設置に向けての協議を行うのであれば、仲介役として県は積極的に関わる気はあるが、県としての補助制度を持っていない以上は、あくまでも主体となるのは市と事業者である。よって、今後の市の考え方に拠って変わってくるかと思うが、もしチップを埋めて今後道路の整備を行っていく、実証実験を行うということであれば、市長が何らかのアプローチを事業者と行う必要性があり、その時のお膳立てとしては県が一定関わることは可能であるという一歩下がった回答であった。

堀委員：もう一点、名古屋鉄道の考え方、方向性、動向等の情報は入っていないか。

宮川委員：今計画されている部分は路線のないところである。新路線を引くのであれば、ルートと利益率等も考えなければいけないので、別途考えている岩倉の南部の工業地帯と一宮を結ぶということに関しては少し話しているが、未完成の道路に新規路線を開くということに関してはまだ需要がどの程度見込

めるのかという段階なので、具体的な返答は出来ないという事だった。

水野委員：先程、5 Gで補助金等の話があったと思うが、補助率はどんなイメージか。10分の10とか2分の1とか、あるいは1千万円、1億とか補助額の規模がわかれば。

宮川委員：県としては、補助に至る根拠法令が、正確な名前が分かりませんが、あって、それに基づいた補助の器を作る事は十分可能だという返答で、補助率までは確認していない。

関戸委員長：新規路線ではない、既存の路線でやるとするなら、例えば岩倉と一宮、岩倉と小牧の既存の路線があるが、そこで実質的に自動運転をする可能性はあるということか。

宮川委員：既存のバス路線は基本的に県道を走っている。岩倉市が要望することは可能かもしれないが、設置主体は愛知県になり、県としては先ほど言ったチップを埋めるということになると、全く補助対象になってない。予算としての器を全く持っていないので、かなりハードルが高いということだった。加えて既存の道を掘り返してチップを埋める作業が、果たして幹線道路で可能かどうかとも考慮する必要がある。バス路線は県道なので、岩倉市として直接工事にかかるということとはできない。

関戸委員長：他に提案や報告はあるか。

堀委員：今後の進め方について、チップに関しては非常に興味があるという事で話がされてきたが、先進地の視察であるとか事例であるとか、資料を共用していく必要があると思っているが、それは誰がどういう風に取りまとめて今後やっていくのか。

関戸委員長：みんなで取りまとめていくわけだが、誰か見識の高い人がいれば是非提案していただければ。

片岡委員：次の回までに各々が勉強して資料を持ち寄ってはどうか。臨床実験等も近隣市町でも実施されているようなので、調査すれば出てくると思う。事例を持ち寄って、何かヒントにして皆さんで見つけて相談していきたいが、どうか。

水野委員：片岡委員に賛成する。各委員が持ち寄って、取捨選択して選んでいくことでいいと思う。ネットや本でも色んな事例が紹介されているので、とりあえずたくさん持ち寄ってその中から岩倉市にとってベストな物をいくつか数を決めて選んでそれで更に深堀していく形でいいと思う。

宮川委員：自動運転を中心に議論されているが、そもそも新しい交通システムに加えて、水野委員が最初に提案した、5 Gの市内設置も考えていかなければいけない課題と思うので、集中することは大切だと思うが、原点の部分からあまり外れない議論をしていかなければいけないと思う。その辺も含めた取り回

しをお願いしたい。

関戸委員長：5 Gも含めて研究するという提案。今、2番の市内交通サービスの話がずっと出ているが、岩倉駅東にぎわい創出についても研究していかなければいけないと思うが、何か研究の仕方というか今後の方針というか、何かあるか。

水野委員：前回少し話題になったと思うが、具体的な事例を検討する以前に、「にぎわい」という言葉の定義付けが必要かと思う。人が集まればいいのか、人が集まって密になる、ひしめき合うくらい人が集まればそれで「にぎわい」なのか。やはり、コロナだけではないが、「にぎわい」というのはどういう状態なのか。定義付けみたいなものがあって、その後、具体的な事例とか検討とかに進んでいくべきではないか。

堀委員：第5次総合計画に大いに関係する件であって、総合計画の中にも必ずこの話は出てくる。認識を執行機関と揃えつつも、議会として新たな「にぎわい」ってというのはこうだよっていうところをしっかりと固めて、逆に提案する事に繋がれば良いと思っている。

関戸委員長：今、1番についてはその定義、2番については事例を研究するという事で、段々まとまってきたかなと思っている。

今後は、10月は真剣に、出来れば毎週2時間程時間を取って集中的に研究していきたいと考えている。今出た1番と2番の話を、次回、10月スタートで考えている。少し研究して頂いて持ち寄るという日を第1日目とし、そこから毎週集中的に研究して政策提言にもっていくというスケジュール感で考えているがよいか。

(異議なし)

(2) その他

なし

9 その他

・今後の日程について

①10月2日(金) 午前10時～

テーマ「にぎわいの創出」の定義、「交通サービスの充実に向けた事例研究」

②10月9日(金) 午前10時～

③10月16日(水) 午前10時～

なお、10月18日(金)に予定されていた本協議会は中止